The comparative study of textstructure in Chinese and Japanese

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-10-05 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: Otaki, Sachiko メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.24517/00034785

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.

第 2 部

接続詞の意味分析の方法と記述方法

—— 因果関係接続への適用例——

大瀧　幸子

（金沢大学文学部）

目　次

1. 意味の記述方法について …… 41
2. 記号論理学公理と自然言語との対応関係 …… 47
3.「因果関係」の表現形式とその意味分析についての問題提起…… 52
3.1. 日本語と中国語における接続表現の分類 …… 52
3.2. 文の階層的構造を分析する概念 …… 54
3.3.「複句文の展叙的職能と、連文の連文的職能 …… 58
4. 本稿の分析対象とする用例…… 64
4.1. 日本語原作の中国語訳と中国語原作の日本語訳 …… 64
4.2. 検索ソフト …… 65
4.3. 収集した用例に対するインフォーマントチェック結果 …… 66
5. 今後の研究方針 …… 76

1：意味の記述方法について

本稿は、中国語と日本語という自然言語における接続表現の異同を考察することにより、その考察結果を「自然言語の体系内で判断され、表記されるところの思惟のありかた」という観点から再検討する、という遠大な研究課題に対する、第一歩の考察として作成されるものである。以下の意味記述の方法についての考察は、これまでの筆者の依拠してきた意味記述の学説を、言語形式を通しての思惟表現の考察に用いるためにはどのような過不足があるかを確認しておくために行うものである。

同じ単語の組み合わせでも異なる文法構造のなかに挿入されると、共起制限がかかって使えなくなったり、共起するためには言語文脈に特殊な意味的特徴が必要となったり、あるいは発話場面での言語外特徴が一種の文脈的意味として共起可能性を高めたりする。このような言語事実は、おそらくすべての自然言語に存在していると予想される。

中国語には動詞と形容詞が組み合わさる文法構造が三種類（状語ｄｅ・中心語統合型／動語[1]・結果補語統合型／動語ｄｅ・様態補語統合型）存在することから、筆者はこの数年、上記の言語事実をどのように解釈すればより簡潔で説明能力の高い体系的な文法記述ができるかを模索してきた。[2]　もっとも関心を寄せていた文法的課題は、語彙的意味を語義的意味特徴として、また文法構造の意義を文法的意味特徴として同一単語の意義素内に記述するためには、両者にどのような相関性を持たせればよいかという問題であった。

具体的に明らかにしようとした主要な文法的課題は次の三点であった。

（1）　二つの単語の語義的意義特徴の総和としての語義と、具体的な文中で用いられたその文法構造全体の意味をゲシュタルトとしてとらえた「統合意味」とを比較す

---

[1]木村英樹・杉村博文『中国語現代文法論』白帝社（朱徳熙『現代漢語研究』の訳）
主語に対する“谓语”を述語と訳し、目的語と補語に対する“述语”の訳語に「動語」という表現を用いてあることに準拠する。

[2] 大瀧幸子 2001ａ「中国語状語中心語統合型と日本語連用修飾統合型」『金沢大学中国語学中国文学教室紀要第５輯』pp1～30

2001ｂ「中国語動詞と形容詞とが構成する統合型の文法的意義特徴（その二）」『東京大学東洋文化研究所紀要第 141 輯』pp91～145

2000「動詞と形容詞とが構成する文法構造―中国語3種類と日本語1種類の対照研究」『金沢大学中国語学中国文学教室紀要第４輯』pp1～25

1999ａ「中国語動詞と形容詞とが構成する統合型の文法的意義特徴（その一）」『東京大学東洋文化研究所紀要第 138 輯』pp131～94

1999ｂ「中国語動詞と形容詞“清楚”が構成する統合型の特徴（Ｉ）」『金沢大学中国語学中国文学教室紀要第３輯』pp1～48

ることによって、その文法構造の統合意義特徴が抽出できるのではないかという方法仮説。

（2） 同一の単語の組み合わせを挿入してできあがった「三種類の文法構造の統合意味」を比較することによって、それぞれの文法構造の統合意義特徴が抽出できるのではないかという方法仮説。

（3） 統合意義特徴を「二つの単語の文法的意義特徴の呼応によって構成される」特徴として記述しなおし、その二つの文法的意義特徴をそれぞれの単語の意義素内に語義的意義特徴とは独立したものとして記述することは可能かどうかという、意義素論[3] の記述方法の再検討。

しかし、筆者が考察対象としてきた中国語の同一語彙の用例のなかでも、インフォーマントの内省報告に大きなゆれが生じるような「周辺的用例」であればあるほど、語義的意味と文法的意味との境界線が不透明になっていくことが観察された。例えば、離合詞の用法において、挿入形式として人称代名詞“我，你，他”のいずれが用いられるかを調査した場合[4]、親の世代では二人称を用いて聞き手に属する事として述べるのが憚られていた語彙的情報“”（讨你的厌，倒你的霉）「？あなたに嫌われた，？あなたはほんとに気の毒だ」などが、子の世代では挿入が許容されていることがわかった。この言語事実は、文型が文型自体として独立した機能を獲得していくにつれ、語彙的情報が薄められて単語の間の語義的共起制限がはずされていく過程を示すものと解釈できる。また、動詞と形容詞が組み合わさる結果補語構造においては、ある出来事が生じた場合に必然的に付随して生じる事態や、ある行為が行われた場合に習慣として必ず注目されると公認されている価値評価が、文法構造の統合意味として表現されることがある。例えば、“洗湿了”（洗濯中に洗濯している人間の服や靴が濡れた）“买贵了”（相場より高く買った）などの表現である。この言語事実は、文法構造の基本的意味が確立されていることを前提として、その出来事が生じる典型的場面において同時に生起する出来事やその行為に対して評価をくだした判断結果を、ゲシュタルトとしての統合意味に包含して表現している、と解釈してよいであ

---

[3]服部四郎 1953「意味に関する一考察」『言語学の方法』再録 1960 岩波書店
1964 a 「言語の音声と意味」　『英語基礎語彙の研究』再録 1968 a
1964 b 「意義素の構造と機能」『英語基礎語彙の研究』再録 1968 a
1968 b 「意味」『岩波講座哲学１１　言語』
1973「意義素の構造」『英語展望』No42、ELEC 出版
1974「意義素論における諸問題」『言語の科学』第５号、東京言語研究所
国広哲弥 1967『構造的意味論』三省堂
1970『意味の諸相』三省堂
1982『意味論の方法』大修館書店

[4]大瀧幸子 1998「離合詞に“這個／那個”を挿入した合成語拡張形式について（一）」『金沢大学中国語学中国文学教室紀要第 2 輯』pp1～23
1991 a 「中国語離合詞が提起する文法問題（その２）」『明海大学外国語学部論集第４集』ｐｐ97~106

ろう。これらの言語事実に対する解釈が妥当なものであるとすると、上記の方法仮説のうち（1）（3）では、こういう解釈が成り立つ根拠を示すことができないだけでなく、単語ごとに文法的意義特徴を分解して記述することが不可能であると判断できる。残るは方法仮説（2）であるが、この仮説はもともと「文法構造には文法構造独自のものとしての意味（統合意義特徴）が存在する」ことを仮定している。この統合意義特徴は、単語ごとに包含されている文法的意義特徴の総和としてではなく、またそれらの呼応関係によって制限されるものとしてではなく、「構文独自の外延と対応関係にある内包として存在する」と仮定されたものである。したがって筆者は現在、＜構文文法論＞を称揚している学派の次のような見解を支持するにいたった。

『本書の中心的な主張点は、英語における基本的な文が「構文」の具体例であり、構文とは個々の動詞とは独立して存在する「意味と形式の対応物」である。つまり、構文そのものが文中の単語の意味からは独立して意味をもつと考えるのである。』[5]

では、中国語における「構文」すなわち構文という記号に特有の外延として、どのような言語形式をあてるべきであろうか。筆者がこれまで考察の対象としてきた構文は、意義素論では統合型と名づけられてきた「品詞の二項配列パターン」に他ならない。統合型には一応、スクールグラマーの術語としても用いられてきた「文法成分の組み合わせ」を根拠とした名称が課せられている（例えば、主述統合型（主語成分と述語成分）、述補統合型（動語成分と補語成分）など）ただし筆者は、例えば述補統合型を分析する場合も、補語成分を形容詞に限って考察してきた。今後、筆者はこれまで準拠してきた意義素論の前提「単語の意義素は意義特徴の束によって構成される」（意義特徴には、語義的意義特徴分析と文法的意義特徴の２種類の他に文体的意義特徴や品詞的意義特徴などが追加されてきた。[6]）という分析に対して次の変更点を加えたうえで、二項の自立語（素材表示の職能を有する単語）で構成される「ミニマム統合型」を、まず品詞配列パターンとして考察し、次に文法成分配列パターンとして単文における中国語の「構文型」として考察対象にとりあげることにする。変更点は以下の４点である。

（1）意義素記述の際に単語の意味として登録される語義的意義特徴と文法的意義特徴とのあいだに明確な一線をひかない。意義素の内部構造として複数の要素が認められる場合は、単に「（○○の意義素内の」意義特徴」として扱う。従来の文法的特徴として記述されてきた形式上の共起制限に関する情報は、「品詞的情報」として、例えば動詞ならばミニマム統合型としての動語賓語統合型へ挿入される場合の配列に関する共起制限、およびその共起制限に共通して認

---

[5] Adele E. Goldberg1995；*Constructions:A ConstructionGrammarApproach to Argument Structure* The Univercity of Chicago Press（『構文文法論』研究社：河上誓作ほか訳 2001 年）序

[6] 国広哲弥１９８２；　第２章意義素：2.4　意義素の内部構造　／文法的特徴（品詞的特徴word-class，統語的特徴 syntactic）語義的特徴（前提的特徴 presuppositoonal 本来的特徴 inherent）含蓄的特徴（文体的特徴 stylistic 喚情的特徴 emotive　文化的特徴 cultural）

められる「動詞の格」充当の役割を記述する。

このように、個々の自立語に辞書的情報として記述される品詞的情報は、「意義素記述のための基礎情報」であり、統合型独自の「統合意義特徴を判定していく場合の基礎的情報」である。しかし、意義素も統合意義特徴も自立語に付随した形式上配列上の情報である品詞的情報とは別個のものとして記述される。

（2）文中のどの文法成分として用いられるかによって、同一の品詞の組み合わせで構成される統合型において、挿入される自立語の共起制限に異なる情報があらわれた場合、文法成分に特有の意味特徴の存在を認めた記述を行うものとする。これは、日本語のように文に段階的構成が存在することが定説となっている言語ばかりでなく、名詞や述語動詞を軸とした体系的な形態変化をもたない中国語において、文法記述を行う場合に必要な区別であると考える。文法成分の定義はスクールグラマーのように配列順序をなぞるものではない（例えば、主題：「展叙[7]を有さず、かつ述定を有さない」）が、稿を改めて述べる。

（3）統合型という二項連結の構造は、直接構成要素分析や樹状構造のなかで層をかえ構成要素をかえて繰り返しあらわれる。そこで、一つの統合型の統合意義特徴を考察する場合、優先的に基礎的考察対象としてとりあげる統合型は（従来通り）つぎの二つの条件を満たしているものと定める。

（1）統合型内の二項がともに自立語１つで構成されているミニマム統合型。

（2）統合型内の前項と後項との関係が単文内の文法成分間の関係として成立する。

第一基本層としてのミニマム統合型と第二段階以上の層としての文法成分配列パターンを示す統合型とは意識的に区別した調査が必要である。第二段階以上の統合型の統合意義特徴はミニマムな統合型の統合意義特徴と区別して、「統合特徴」と名称をつけかえることにする。とくに統合特徴のうち、単文として述語項に述定伝達が加わっている統合型は「構文型」として考察しなおす必要があると予想される。[8]中国語の単文は日本語の単文と異なり、述定伝達に特有の文末形式や語気詞が僅少であるため、中国語においては日本語と同様の陳述を考察する必要はない、とながくみなされてきた。しかし、近年、動態助詞“了”

---

[7] 渡辺実 1971『国語構文論』塙書房
1996『日本語概説』岩波書店
構文的職能→素材表示の職能（これのみの単語＝体言）：　関係構成の職能（用言・副詞類）
関係構成の職能（これのみの単語＝助詞類）→叙述：　陳述
叙述→展叙(連用、連体、並列、接続、誘導)：　統叙　→再展叙

[8] 記述をより複雑にするだけではないか、記述の効率が落ちると危惧されるかも知れないが、「中国語独自の存現句構文での動語賓語統合型にはミニマム統合型の段階では加えられない制限がある」という周知の言語事実に対する「正確な記述」を行うためには必要である。日本語における南不二男の従属節４段階説もすでに公認された統合型の階層と捉え直せる。

の用法や、数量詞の有無が文の言い切りに影響するという研究[9]が行われ始めている。いかなる自然言語においても、文の言い切り（本稿の観点にたてば、「コミュニケーションのための伝達最小単位」）の形式が、文音調やポーズという音声特徴だけで担われているはずがない。音声が捨象された書面語として文法的情報を示す形式が極めて少ない古典中国語において、その読解の工具書として『虚詞字典』が多作されたことなども、中国人の思惟が陳述に関する形式に無関心ではない証拠といえる。

そこで、本稿の本論にはいる前に、筆者がこれまで考察してきた統合型の統合意義特徴を再録し、統合意義特徴と統合特徴の記述例とする。ただし、それらは第一段階でのミニマム統合型および統合意義特徴であり、以下の品詞配列パターンとしての統合型をもとにしている。

状語ｄｅ・中心語統合型 → 形容詞ｄｅ動詞統合型

動語・結果補語統合型 → 動詞形容詞統合型

動語ｄｅ・様態補語統合型 → 動詞 de 形容詞統合型

筆者が上記品詞配列パターンに関して記述した統合意義特徴は、おのおのの統合型の弁別的意味特徴として設定している。[10] また、さらにいくつもの同一品詞内に属する単語を置き換えて考察した結果、ほかの言語形式の配列パターンと比較しても、文法成分配列パターンにおける統合特徴として抽出できると予想した意味特徴を、（上記の左側の）文成分統合型相互の示差的特徴として記述しなおすと以下のような区別がたてられる。

形容詞ｄｅ動詞統合型＜統合意義特徴＞

「動語が表す出来事が一回限りの事実となる時空」（叙述時点・叙述地点）にある同一の背景内で、事実と並存して生起している過程または生起するはずの状態[11] を詳述する。

＜状語・中心語統合特徴＞述語が現す事実に関する叙述時点・叙述地点に対して

---

[9] 陸俭明 1988「现代汉语中数量词的作用」《语法研究和探索》第 4 輯

[10] 池上嘉彦 1975『意味論： 意味構造の分析と記述』大修館書店

「示差的特徴」という術語を採用。

国広哲弥 1982； 第 1 章従来の主要意味学説： 1.5 弁別的特徴説

E.A.Nida19745 *Componential Analysis of Meaning* 紹介

その他；第 2 章意義素： 2.2.意義素の概念

「人間心理を意義素規定に参加するひとつの要素と認めることは、意義素の中に弁別的（distinctive）ではないが、文化的・情緒的に大多数の話し手によって共有される関連（relevant）特徴を認めることの支えとなる。指示物を持たない、たとえば‘not, if, or‘などの語の意義素は人間心理ないしは頭脳の働き方の仕組みの存在を認めることによって初めて成立し得るものと言えよう。」

[11] 出来事 action・過程 process・状態 state：

中右実 1994『認知意味論の原理』大修館書店

第４部 空間の文法： ２０．意味役割理論の基本構図

中核命題の型は述語が項に対して要求する意味役割構造として基本述語の類型へ還元される。

認定または設定される情報を叙述することで、事実の背景を詳述する。
動詞形容詞統合型＜統合意義特徴＞ 動語の表す出来事(時空を超越)が「平相・流相・異相にわたるプロセス」において、流相に生起している過程、または異相に生起するはずの状態を判定する。 ＜動語・結果補語統合特徴＞動詞語義が表す相プロセスを評価判定する。
動詞 de 形容詞統合型＜統合意義特徴＞ （1） 動語が表す（誰が何を、の格を含む）出来事に対して、典型基準[12] に基づいてくだされた評価を描写する。出来事が事実化した時点で、その影響によって生じたと認定された状態，または、その出来事を事実化した当事者に生じてきた感情を描写する。 ＜動語・様態補語統合特徴＞状態を既存する出来事によって生じたものと推測して、異種の叙法を連結する[13]。

[12] 典型基準：形容詞による比較機能に関して設定される比較のための基準のひとつ。
Ernst Leisi1953『意味と構造』鈴木孝夫訳 1960 研究社
Ⅳ複合的語内容：F. 相対的な条件とその基準
次元形容詞には次のすべての基準が適用できる。
「種の基準」「(種の正常な標本との）比率的基準」「個人的な期待基準」「適格基準」
国廣哲彌 1982； 第４章語彙の構造：4.5.2 反義関係（１）連続的反義
暗示的基準として「上位範疇基準」「同範疇基準」「期待基準」「生理的基準」を示す。

[13] 本稿の「叙述」「判定」という区別は、これまで、動詞の意義素記述と形容詞の意義素記述に用いてきた術語であるが、中国語の典型的動詞述語文と典型的形容詞述語文の叙法の区別として用いることとする。なぜならば、動詞も形容詞も“定語”“状語”の文法成分として用いられた場合、その統合意義特徴との呼応により叙法に変化が生じるのであり、従来、動詞形容詞の意義素として記述しようとされてきた「個々の単語に固有の意味」は、原則として述語成分の位置にある意味だったからである。
叙述：(渡辺『国語文法論』における「陳述」「叙述」の二分類)
叙述時点叙述場面を出来事（意義素レベル：時空を超越した概念としての出来事）の背景として設定したうえで「事実」として述べる叙法。ただし、時空について言語形式を用いた直接的言及（「時空叙述」）が行われていなくても、背景としての情報が前後の文脈および発話場面から提供されていれば、その単文全体が叙述の叙法によって述べられているものとする。
詳述：動詞述語に関連する述語関連要素を補充していく叙法のうちで、名詞を用いない叙述。
判定：
状態を時空を超越したものとして述べる叙法。
限定：名詞判定対象が主語成分の位置以外におかれた場合、また判定基準との比較（程度判定など）が焦点にされた場合の判定
中間の特徴を有する叙法：過程については、時空が加わった叙法が存在しうる。反対に動作行為については、時空が捨象された出来事として述べる叙法が存在する。それらの叙法に対しては「～～の描写」という表示を加えることにする。

２：記号論理学公理と自然言語との対応関係

自然言語を取り扱う学問において、すべての自然言語についていずれかの自然言語で記述された普遍的規則を仮定できたものとして立論をはかる方法は、筆者には暴挙に思える。立論を試みる際にみずからが何語で思考しているかを省みるならば、普遍を想定すること自体の危うさと、膨大な自然言語の実態調査の必要性のまえに、足がすくむ思いを抱くからである。この、自然言語について普遍を論じようとするならば、個々の自然言語から遊離した思考ツール（しかも多くの自然言語話者に共有されうる）を用いない限り、循環論法の泥沼に陥っていくのではないか、という危惧は、筆者が意義素を「普遍的存在たりうる意義特徴」で記述できるものだろうか、という意義素論入門当初に感じた危惧と同質のものである。筆者の現在の科学的知識の範囲では、自然言語について考察するにあたり、アプリオリな普遍的基準として想定してもよいと思われるものは、人間の生命体としての認知能力の範囲内（脳の機能）において、「外界を認知する過程のなかに普遍的要素が点在しうる、と予想すること[14]　」である。また、社会的生物としての人間が、「互いの意思を疎通しやすくする目的のために言語を用いている、と想定すること」であり、コミュニケーションのツールとしての有用性を保つ点において、言語が他の記号から区別されているとみなすことである。

そこで筆者は、人間の思考ツールとしての記号論理学について多少の知識を得て、言語と思惟の相関関係についての記述に援用していきたいと望んだ。筆者の現在の能力は、命題論理学と自然言語の論理との相違点を理解できた段階であり、いまだ完全に援用する理解力には到達していないため、本論で扱う「自然言語の論理」の特徴とその限界が判然としてくる例をあげるにとどめる。

『諸言語に現われた人間共通の思考のあり方を、どの特定の言語の語彙や文法にも縛られない諸言語共通の最小限のルールで記号化したものが、論理学である　(p17)　』[15]

記号論理学の領域では、さまざまな入門書で理定理がさまざまに解説されているが、まず最初に確認せねばならないことは、二値論理学における真理値「Ｔ・Ｆ」なるものが、自然言語における叙述・判定内容の「真・偽」とは無関係だということである。真偽についての公理が日常言語といかに異なっているかについて、三浦 2000 より引用する。

---

[14] 大津由紀雄編 1995『認知心理学３言語』東京大学出版会ｐ７

今後新たな展開が期待されるのは言語心理学研究と脳科学の対話である。近年の UG（注：普遍文法 Universal　Grammar）研究の進展と脳内での言語処理過程を探るテクノロジーの進展とそれに伴う測定装置の低価格化を背景に、萌芽的ではあるが刺激的な研究が発表されはじめている。

Kutas,M.&　van Petten,C.K. 1994 Psycholinguistics electrified. In M.A..Gernsbacher(Ed..)
Handbook of psycholinguistics.　Academic Press.

斉藤勇監修・箱田裕司編 1996　『認知心理学重要研究集』２記憶認知　　誠信書房

[13] 三浦俊彦 2000『論理学入門』NHKBooks８９５

『　前提１　昆虫は火を吐く。

前提２　猫は昆虫である。

前提３　したがって、猫は昆虫である。

証明としては正しいと言わざるを得まい。・・・言語がどのようなものであろうと、そして世界で何がおこっていようと、確実に成り立つ命題の真偽の組み合わせパターンを体系化するのが論理学である（ｐ18）　』

すなわち、命題論理学では、「現実」は「仮想世界の一つ」にすぎないのである。現実世界はただ、ほかの仮想世界でも同一の命題が「T」となる確率が高い、と確証する根拠として、そこでの観測事実が仮説演繹法に用いられるという特典を与えられた仮想世界にすぎない。命題の真偽を自然言語の表現に対して援用してみるならば、いわば構文レベルに破綻がないことのみを保証し、加えられた語彙的情報のミスマッチは無視するという評価方法になぞらえられよう。現代論理学の創始者とされるフレーゲが唯一「必然（：偶然），可能（：不可能）」という様相概念について言及したと指摘される箇所を引用する。[16]

『必当然的判断と主張的判断とは、前者の場合には、それを導くことのできる普遍的判断があるという含みがあるのに対して、後者の場合には、そうした含みがないという点で区別される。ある命題が必然的であると言うことで、私は、私がそう判断する根拠についてあるヒントを与えているのである。しかし、判断の概念内容はこれによって変わるわけではないから、必当然的判断の形式はわれわれにとってなんら重要なものではない。ある命題が可能的なものと称されるとき、そう言うひとは、その命題の否定がそこから導かれるような法則は自分には知られていないという含みで言っているのか、あるいは、その命題の否定を普遍化したものは偽であると言っているのかのいずれかである。・・・・「地球がいつか他の天体と衝突するということは可能である」は前者の例であり、「風邪のせいで死ぬこともありうる」は後者の例である。』（傍点、原著のまま）

しかしながら、自然言語におけるもっとも必要とされる真偽判断の基準は、日常のコミュニケーションがいかに行われて、どのような成果を挙げるか、に関わるべき基準としてたてられるべきであろう。[17]　なぜなら、自然言語における真偽とは、「あの人は嘘をつ

---

[16] 飯田隆 1995『言語哲学大全Ⅲ』意味と様相（下）；勁草書房
様相の論理学：４．１　創始者による無視―　フレーゲとラッセル
Frege,G1879 Begriffsschrift「概念記法」

[17] 命題論理学での真偽の中心的テーゼは次のように言明されている。
「ある文を理解しているということは、それが真であるための条件を知っていることである。」
フレーゲ 1893『算術の基本法則第１巻』
「命題を理解するということは、それが真であれば何が成り立つかを知るということである。」
ウィトゲンシュタイン 1921『論理哲学論考』
文字づらだけから見れば、自然言語による人間の相互関係と関わってもおかしくない言明であるが、そのバックボーンとして、形而上的概念の排斥、経験的価値の無視をおいて構築され

いている」「皮肉を言われた」などの判断を表出し理解する基準であり、かつ、その表現意図を達成するために言語形式を操作する基準として機能できるものでなければならない[18]。そのような人間精神の判断能力のやりとりこそ、論理記号を含めて他の記号や符号では担うことのできない自然言語特有の役割だと考えられるからである。

（1）	発話場面において認識できる限りにおいての「現実との合致」 （合致すれば「真」）
（2）	文脈から矛盾が見出せない限りにおいての「論理的整合性」 （整合性があれば「真」）

おのおの、話し手の側と聞き手の側とから、その真偽が別個に判断されるものとする。

ている論理実証主義のテーゼでは、自然言語は形式言語から峻別されている。

しかし、１９３０年代半ばより、自然言語を形式言語と同様に扱って、厳密な意味論を構成しようとする言語哲学が隆盛してきている。しかし、その基礎的な業績と目されるタルスキの議論は、大変残念なことにクラス計算の言語を修得していない筆者には解説者の手を通してしか理解しえない議論であった。以下の注はすべて、飯田隆 2002『言語哲学大全Ⅳ』真理と意味：に拠る。（ページ数も本書のものである）

A．Ｔａｒｓｋｉ（タルスキ）ドイツ語版 1935；　『形式化された言語における真理概念』

（1）「構造記述名」という概念を提示。チョムスキー学派の句標識などが充当可能。(p101)

（2）或る言語Ｌ1　の文Ｓが真であるための必要十分条件は、Ｓが次の集合の要素であること。(p187)

∩ {X:　(T1) Ｌ1　のある名前αと、Ｌ1　のある名前βについて、φ＝βαであるならば、V（α）∈V（β）←→φ∈X、かつ、(T2) Ｌ1　のある文φとχについて、φ＝「(φ∧χ)」であるならば、φ∈Xかつχ∈X→φ∈X}

（3）規約Ｔ：　対象言語の文に適用される、メタ言語に属する述語「Ｔｒ」が、真理の十分な定義であるためには、対象言語のすべての文Ｓについて、　<ＳはＴｒである←→P>であることが、その定義から帰結することである。ただし、「P」はＳのメタ言語への翻訳である。　（ｐ191）

ディヴィドソン 1967『真理と意味』

1984 年『真理と解釈』（翻訳 1991；野本和幸ほか，頸草書房）

ディヴィドソンがタルスキの真理定義に新しく割り当てた役割、すなわち、自然言語の意味論にとって、ミッシング・リングという役割が、将来の言語学の教科書の多くに採用されるかどうかはまだわからない。（ｐ175）しかし、現在も「ディヴィドソンの真理条件的意味論のプログラム」として、Ｔ理論などが検討されている。

筆者の言語観では、デヴィドソンのコミュニケーションに対する動的解釈における二つの理論「手持ちの理論」「経過理論」が指摘する内容についてその区別があることには同意できるが、経過理論への過重な評価による<言語知識の死亡宣告>（野本和幸／山田友幸編 2002『言語哲学を学ぶ人のために』世界思想社ｐ119）への誘導は承認できない。

[18] 益岡隆志１９９１『モダリティの文法』くろしお出版

第４章　叙述の類型、真偽判断、有題文無題文

主題を表す形式（助詞「は」）が真偽判断を表す形式（助動詞「だろう」など）と同じ階層に現れるという事実から、真偽判断文は「有題文」であり、真偽判断のモダリティをもたない非真偽判断文は「無題文」だとしている。中間形式を認めているものの、文成立に必須の条件としては認めない点で、本稿での真偽とは立場をことにする。

話し手の側からの真偽は表現者の真偽であり、聞き手の側からの真偽は解釈者の真偽である。

両者の食い違いから生じるのが「誤解」である。本稿では原則として「表現者は、その意図する真偽を、単文複句文を言い切る時点で表明する」として、思惟と表現の考察を進めていく。表現者の行為を文法の叙法の１つとしてとらえなおすならば、文終止の意味的条件として表現者はその叙述・判断内容についての真偽に対する自己判断「述定」[19]をくだすと仮定することになる。言い換えると、本稿での真偽判断とは、「コミュニケーションのための伝達最小単位」を成立させる必須条件として行われる表現行為である。[20]

つぎに、述語論理学と自然言語とを比較してみると、述語論理学には自然言語の曖昧さを明確に区別して記述する機能が備わっている。すなわち、自然言語における肯定否定のスコープ、および指示範囲などについて、存在量化子∃（ある～）と全称量化子∀（すべての～）を用いてその詳細な区別を表すことができる[21]　。(以下、引用は三浦 2000 より)

『「この仮装パーティーに太郎がいることにみんなが気づいている」この文を記号化した場合、量化子の順序によって、別の事柄が表される。人物Ｘが命題Ｐに気づいているということをＲ（ｘ，ｐ)、太郎をｔ　と書くとしよう。ただし、ｘ，ｙ　の論議領域は仮装パーティーの出席者に制限するものとする。

① ∀ｘ∃ｙＲ（ｘ，ｙ＝ｔ）

② ∃ｙ∀ｘＲ（ｘ，ｙ＝ｔ）

③ ∀ｘＲ（ｘ，∃ｙ（ｙ＝ｔ））

---

[19]芳賀綏 1954「陳述とは何もの？」『国語国文 vol２３．ｎｏ４京都大学』

中右実 1994；　第１章　立場の文法　：４．Ｓモダリティと Ｄモダリティ

（１）Ｓモダリティ S-MOD とは、話し手が発話時点において全体命題 PROP（の真偽いずれかの値）に対してとる信任態度（コミットメント）のことをいう。

（２）真偽判断のモダリティ
判断保留のモダリティ
是非判断のモダリティ
価値判断のモダリティ
拘束判断のモダリティ

＜真偽判断の表現形式＝～にちがいない、だろう／おそらく、思うに／よ、ね、わからない＞

英語の階層意味論についての論考は小数であるが、モダリティばかりでなく、「命題部分の重層構造」を立論の基礎においた研究が多くみられるのは、日本語研究の特色といえる。

野田尚史 1995「文の階層構造からみた主題ととりたて」『日本語の主題と取り立て』
くろしお出版：　その他（注２５，２６，２７参照）

[20] この点、対話を進めていく基本原理として「協調の原則」を提案したグライスの学説を援用しつつ、自然言語の条件文について考察した論文が参考になった。

W. M. ヤコブセン 1990「条件文における「関連性」について」『日本語学』4 月号 明治書院』

[21] 『英語学体系５　意味論』大修館書店 1983
３．１形式論理学の本性

奥津敬一郎 1974『生成日本文法』大修館書店
第５章８．名詞の全称および特称限定

生成文法では深層構造における名詞に、量化記号∀と∃を付加する方法を採用した。

①は、すべての人について次のことが成り立つ。すなわち、その人は、ある人について（同一人物でなくてよい）、それが太郎と同一人物だということに気づいている。(p78 注：真であることにしか「気づかない」はずであり、別人について「思い込む」ことはあっても「気づく」ことはない。②のように解釈しなければなるまい）　一方②は、ある人について次のことが成り立つ。すなわち、その人（同一人物である）が太郎であるということにみんなが気づいている。③は、すべての人は次のことに気づいている。すなわち、太郎と同一人物である人がいるということ。(とにかく、仮装者のうち一人は太郎である、とみんなが思っている)」　ｐ７７～ｐ７８一部中略』

ただし、この量化についても、論理学の領域では自然言語とは異質の関連付けがなされている。

『ｘとして林檎の集合をとると、「すべての林檎は黄色い」すなわち「黄色くない林檎はない」から「黄色い林檎がある」は導き出せない。林檎なるものが１つも存在しないかもしれないからである。ｐ８３』

自然言語における通常の文脈では、要素（固体）を含まない集合を表現の対象とすることは避けられるのに対して、記号論理学では「すべての可能世界で何かが存在すること」を無条件の真理として認めることはできない。その点、自然言語ではこの現実世界における経験的真理として、「話題にのぼった事物は存在していること（話者と聞き手にとって共通に認識されていること)」を、アプリオリな語用論的前提と認めているのである。なぜなら、自然言語は同質の社会・経験社会に属するひとびとにとってのコミュニケーションを円滑にするための道具だからである。

以上、形式論理学の議論を自然言語の考察に必要とされる観点と比較した場合、どのような基本的相違点を有するかという確認をおおよそすませたものとする。以下、接続表現の分析について議論の範囲を限定して参照していくことにする。

３：「因果関係」の表現形式とその意味分析についての問題提起

本稿の目的は、中国語“因为”“所以”と日本語「だから」を用いた接続表現の比較検討を通して、中国と日本における「順接・因果」という論理関係構築方法の異同を考察しようとするものである。

３．１で、まず、この二つの接続詞の用法を比較の対象としてとりあげた理由をしめし、つぎに３．２で、両者の用法があらわす因果の意味を比較するための比較基準を設定する。

３．１　日本語と中国語における接続表現の分類

日本語教育と中国語教育とで、接続表現の文法的区別を表すために用いられてきたスクールグラマーの術語は双方とも接続詞の分類を基準にしたものである。[22]

＜日本語＞接続詞の分類例

ア．並列・添加　　および、かつ、また、そして、それに、しかも
イ．時間的継起　　それから、そして
ウ．選択　　あるいは、または、もしくは、ないし、それとも
エ．転換　　さて、ときに、では、ひるがえって
オ．順接　　そこで、それで、だから、したがって、ゆえに
カ．逆接　　が、けれども、しかし、だが、でも、ところが、
ク．説明　　つまり、すなわち、要するに、たとえば
ケ．補足　　ただし、なぜなら、もっとも

＜中国語＞“関連詞”の分類例

联合关系

并列　　和，跟，既～又，而
选择　　或（者），还是，要么，宁可，与其
承接　　而，以至，于是
递进　　并（且），而（且），不但，何况

偏正关系

因果　　因为，因此，因而，所以，既然
假设　　要是，如果
条件　　无论，不管，只有，只要，除非
让步　　虽然，尽管，即使，就是，哪怕，固然
转折　　但是，不过，然而
目的　　省得，免得

複句文内、または文間の接続を表現する言語形式を品詞の分布という面から比較してみ

---

[22] 日本語教育学会 1990『日本語教育ハンドブック』大修館書店，ｐ４６４，
劉月華等 2001『実用現代漢語語法』（増订本）商務印書館，p313

ると、接続助詞が発達している日本語では、中国語が接続詞で表す「条件」の項目は<れば、たら、なら、(と)>を代表形式とし、「因果」の項目は<ので、から、(のだから)>を代表形式とみなすことができる。また、接続副詞として主語述語の間にのみおかれる形式が発達している中国語には、日本語の「順接」<れば、たら、と、なら、から、ので>などに相当するオールマイティの副詞“就”・“便”があり、“而”は文体として書面語・地の文を選択すれば、「順接」「逆接」の双方を表現できる。したがって、日中両国語の接続表現の異同を通して両国の思考方法の異同を考察しようとするには、単に、同一品詞であるということのみを根拠として比較することは無意味である。

また、両国語の複句文研究の学説史もその重点を異にしている。学説史が異なるという場合、多くはその言語の構造的意味論的差異が正しく反映されていると考えられ、日中両国語における複句文研究の進度のちがいも例外ではない。したがって、どちらか一方の言語の従来の分析にのみ依存して、すなわち一方の単語とその翻訳表現とを比較する対象に選定することは、牽強付会の難を生じやすいと予想される。

本稿が比較の対象として中国語“因為～所以”と日本語「だから」[23]をとりあげるのは、つぎの理由による。

(1) 複句文と連文(後述)内で、ともに3箇所の文法的位置を占めることができる。文法的位置ごとの意味の違い(すなわち「倒置」の統合意味特徴)まで十分な考察例が収集できると予想したからである。また、接続詞を用いることの少ない中国語口語体の文章において、もっとも使用率の高い言語形式であり、用例をとりやすいことも選択理由である。

(2) すべての条件文の前句と後句の意味が関連つけられる背景には、言語化されるされないに関わらず、因果関係のロジックが存在する。
「因果関係こそ、二つの意味内容の間の時間的継起の有無(出来事叙述,超時的判断の区別)に関わらず、すべての複句文関係の基礎である」という仮説は、筆者が本稿をおこすにあたっての根源的仮説である。因果関係は、ときに会話の含意として解釈され、ときに前提が言語化されるメカニズムの一環として理解される。この因果関係は思惟における関係であって、言語形式として表されている前句が必ずしも原因を表すものではなく、後句が必ずしも結果を表すものではないことは周知のことであり、スクールグラマーでも条件文と仮定文の区別をつけている。

---

23 接続詞「だから」の成立は、江戸時代「カラ」「サカイ」が発達しはじめ、かなり遅れて「ノデ」が発達しはじめてからと推定される。「のだから」の用法の一部は、「のだ+から」「のだ+だから」のいずれの意味の総和によるものともみなせない、と指摘されるのも、新しい形態が定着していく途上ゆえの現象であろう。

小林賢次 1996『日本語条件表現史の研究』ひつじ書房:
第15章 確定条件の表現形式の分布をめぐって

文法的位置の表示名は、前句（別称：従属節または従属文）と前文および後句（別称：主節または主文）と後文とする。また、それぞれ、前後というたがいに関係しあう名称をもちいる場合には、すでに「論理的な関係付け」がなされたあとの言語形式および意味内容をさすものとし、いまだ接続詞による関係づけがなされていない言語形式および意味内容は、ＰＪ（前句内）とＰＳ（前文内），ＱＪ（後句内）とＱＳ（後文内）と名づけることにする。また、接続詞の略称としては、「だから」は＜ｄａｋ〉、“因為”は＜ｙｉｎ＞、“所以”は＜ｓｕｏ＞と表記する。

（Ｉ）前句と接続した位置（日本語では後方位置、中国語では前方位置）

日本語＜ＰＪ＋（の）ｄａｋ[24]＞＜後句＞

中国語＜ｙｉｎ＋ＰＪ＞＜後句＞

（Ⅱ）前句と後句の中間位置

日本語＜前句＞＜ｄａｋ＋ＱＳ＞

中国語＜前句＞＜所＋Ｑ句＞

（Ⅲ）後句と接続した位置（日本語では後方位置、中国語では前方位置）

いわゆる文法的位置の倒置である。＜ｄａｋ＞＜ｙｉｎ＞と（Ⅲ）で統合できるＱＪと、（Ｉ）におけるＰＪとの間にどのような異同が存在するかを考察することによって、「倒置」という統合意義特徴の記述が可能になることが期待される。

日本語＜前句＞＜ＱＪ＋（の）ｄａｋ＞

中国語＜前句＞＜ｙｉｎ＋ＱＪ＞

この（Ｉ）～（Ⅲ）を区別して考察する理由は、３．４「因果関係」を表す形式，で改めて論ずる。

３．２ 文の階層的構造を分析する概念

日本語文法における接続の研究は、条件節「れば、たら、なら」について豊富な蓄積があり、そこで討議されてきた概念は、日本語における因果関係の表現分析にも有用であることは、筆者の前記の仮定の当否に関わらず疑いのないところであろう。しかしながら、その細やかな個々の意味特徴の記述は中国語接続詞の意味分析にそのままあてはめられるものではない。なにごとであれ、具体的事物を比較対照することによって明らかにしたい課題について考察を進める場合、抽象的な比較の枠組み、基準を必要とする。抽象的な基

---

[24] 野田春美 1995「「のだから」の特殊性」『複句文の研究（上)』くろしお出版
白川博之 1995「理由を表さない「カラ」」『複句文の研究（上)』くろしお出版
野田春美 1997『の（だ）の機能』くろしお出版
田野村忠温 1990『現代日本語の文法Ｉ－「のだ」の意味と用法』和泉選書
桑原文代 2003「説得の『のだから』」『日本語教育』117　日本語教育学会
名嶋義直 2003「ノダカラの意味･機能」『語用論研究』第５号　日本語用論学会
Blakemore、D.2002. *Relevanse and Linguistic Meaning.* Cambrige University Press

準をたてない比較とは、形式上の違いを列挙する以上の情報を提供することはできない。

本稿では、「因果関係の表現が準拠しているところの論理的思考」を考察していくにあたり、まず「従属節と主節とが関係づけられる」という統合意味特徴は、文の意味の階層性に関する検討を経て集められた情報によって構成されるべきである、と仮定する。すなわち、外界に指示対象をもたず（素材表示の職能を持たず）文の叙法に関する機能のみを果たす接続詞は、その語義を文の叙法に関する概念を表す術語で記述されるべきである、と仮定する。記述に用いる概念と術語は、以下の先行研究（年代順）で用いられたものを、まず適用できるかどうか検討しつつ選定していくことにする。

（1）渡辺実の「素材表示」に対する「関係構成の職能」についての分類（注７参照）

（2）南不二男によって発見指摘された４段階の従属節分類[25]

（3）南説に対して益岡隆志、田窪行則[26]、尾上圭介[27]によって加えられたモダリティ表示との対応関係

（3）日本語の条件表現[28]について弁別的特徴としてとりだされた概念

（4）Grice，H.P１９７５　を踏まえつつ、坂原茂１９８５が指摘した条件文の「言及世界」概念[29]

（1）～（3）は、日本語学で定説として認められる（べき）諸説である。中国語学において、中国語の文構造において階層性が存在するという主張は、日本語のように＜ある接続表現形式とその接続される対象となる統合型における共起制限＞に注目した論考としては管見の限りでは存在しないが、＜連体（連用）修飾成分内の統合順序＞に一定のスタンダードな順序がみられる、という指摘のなかに文の階層性を認める観点の萌芽が存在している[30]、と筆者は考える。また、（4）は真理条件を放棄せずに、しかも自然言語を切り捨てようとしない言語哲学として、分析文法が参考にしうる著作である。

さて、日本語の「だから」「のだから」が文の階層のいずれに属するかについて、考察しておく。

---

25 南不二男 1974『現代日本語の構造』大修館書店
1993『現代日本語文法の輪郭』大修館書店

26 益岡隆志 1997『複句文』くろしお出版　第２部　従属節と文の概念レベル
田窪行則 1987「統語構造と文脈情報」『日本語学』６巻５号

27 尾上圭介 2001『文法と意味Ｉ』くろしお出版　第２章第５節　南モデルの内部構造

28 益岡隆志編 1993『日本語の条件表現』くろしお出版
W. M. ヤコブセン 1990「条件文における「関連性」について」『日本語学』4 月号　明治書院

29 Grice，H.P1975 Logic and conversation. In P.Cole&J.Morgan(Eds.),*Syntax and semantics,3.* AcademicPress.pp41-58
坂原茂 1985『日常言語の推論』言語科学選書２　東京大学出版会

30 刘月华 1984：定语的分类和多项定语的顺序《语言学和语言教学》安徽教育出版社
陆丙甫 1988：定语的外延性，内涵性和称谓性及其顺序《语法研究和探索（四）》北京大学出版社
马庆株 1995：多重定名结构中形容词的类别和次序《中国语文》第 5 期

【表１】観点α・β・γ＜（従属句の分類基準）

<table>
<tr><th>観点γ＜句末助動詞</th><th>観点β＜句中成分</th><th>観点α＜包摂関係</th><th>従属句の接続助詞</th><th>南説</th><th>(南1993)</th></tr>
<tr><td>γ1類(助動詞ナシ)</td><td rowspan="2">β1類(主語以外の格成分・場所・副助詞・否定要素</td><td rowspan="2">α1類</td><td>ナガラ(平行継続)
ツツ</td><td rowspan="2">南Ａ類</td><td rowspan="2">連用反復</td></tr>
<tr><td>γ2類(～ナイ)</td><td>テ(情態修飾)</td></tr>
<tr><td>γ3類(テイル)(タラ・ト
確定)　γ4類(タラ・ト
仮定)(ヨウ・ソウ様態)</td><td rowspan="3">β2類</td><td>α2類タラ・ト(仮定)</td><td>バ・タラ・ト</td><td rowspan="5">南Ｂ類(連体修飾内に収まる)</td><td rowspan="5">ナガラ(逆接)
連用形
～ズ
～ナイデ</td></tr>
<tr><td rowspan="4">タラ・ト(確定)
α3類</td><td rowspan="2">テ(理由)</td></tr>
<tr><td>γ5類
(タ・ラシイ)</td></tr>
<tr><td rowspan="2">β3類(主題・タブン
・マサカ)</td><td>(ノ)ナラ</td></tr>
<tr><td>ノデ・ノニ・テ(並列)</td></tr>
<tr><td>γ6類(ウ・ヨウ・マイ)</td><td>ガ・カラ・ケレド・シ</td><td>南Ｃ類</td><td></td></tr>
</table>

【表１】において、太線の左側は尾上 2001（p351 南モデルの学史的意義）による。尾上による「南の ABCD４段階が三通りの解釈基準を含んでいる。その解釈基準によって従属句の分類結果が異なる」という指摘は傾聴すべきものであろう。特に、観点γの分類基準を排除した場合、「広義条件句は大きく仮定・継起のＢ類と確定・並列のＣ類とに分類されることになる（p341)」という確認は、本稿にとって重要な確認である。南 1993ｐ１１６表６　では、従属句内の＜成分、要素の現れの比率＞調査が示されていて、「のだから」の形式はＣ類＜～ガ、～カラ、～ケレド、～シ＞のなかに現われる＜ノダ，形式名詞ダ＞とＣ類＜カラ＞の連結形式として表示され、「のだから」は南説ではＣ類に属する。

南説の再解釈としてもう１つ、田窪 1990 をとりあげて参考とする。まず、指摘とともに、文が表す情報の種類として、旧情報の前提部分と新情報の焦点部分の区別およびその焦点化が可能な位置のスコープ（疑問の焦点の位置）と「の」との関わりとともに、「から」がＢ類とＣ類とに分かれることが指摘されている。また、「のだ＋から」や「ので」もＣ類の用法をもつことが示されている。

ただし、筆者は QJ に後続すると同時に文末に位置する「～のだから」については、「の」の埋め込みによって統括された名詞的素材表示に、「だから」の「何らかの叙述、または判定がなわれたことへの理由付け」という関係表示の職能が加わった叙法に対して、さらに

「構文特徴」の述定「私が関係付けている」と伝達「納得せよ」が加わると解釈する。[31]

【表２】

	文の構造	統語範疇：意味タイプ	接続助詞
A類１	様態・頻度の副詞＋動詞	動詞句:動作の命名	テ, ナガラ, ツツ, タメニ(目的) ママ, ヨウニ(目的)
A類２	頻度の副詞＋対象主格＋動詞(＋否定)	動詞句:過程・状態	
B類	制限的修飾句＋動作主格＋A類＋(否定)＋時制	節　　:事態	テ(理由、時間)タメニ(理由)カラ(理由) レバ, タラ, ノデ(？), ヨウニ(比況)
C類	非制限的修飾句＋主題＋B類＋モーダル	主節　:判断	カラ(判断の根拠), ノデ, ガ, ケレド, シ, テ(並列), マス・デス
D類	呼掛け＋C類＋終助詞	発話　:伝達	ト(引用), トイウ

B類の「カラ」と、C類の「カラ」とは次のような用例の解釈として示されている。(以下要略のみ)

「彼が行ったから彼女も行ったでしょう。」では、「でしょう」のスコープに「から」節を入れられず、「から」節は「彼女が行った」理由ではなく、話者がそう推測する理由（＝判断の根拠）を述べている。「から」節が「でしょう」のスコープに入り、「彼女の行った理由」を述べられるようにするためには、「の」を入れなければならない。(「彼が行ったから彼女も行った<の>でしょう。」) すなわち、文末の述語以外では、「の」のスコープ内に含まれる要素であるA,B類の要素が、潜在的な焦点位置にきうるのである。

焦点がおかれる優先順位は、B類、A類、補語の順序であり、C類の要素すなわち非制限修飾節には焦点がおかれることはない。

B類の「から」は、「誰がいるから北海道に行くんですか。→　田中さんがいるから、北海道に行くんです。→田中さんがいるからです。」という疑問詞への応答（焦点の位置）に使えるが、C類の「から」は「※誰がいますから北海道に行くんですか。→　田中さんがいますから、北海道に行くんです。→※田中さんがいますからです。」のように、疑問詞への答えとして用いられてはいない。B類の「から」は行為の理由となって制限修飾節を成しているのに対し、C類の「から」は判断、以来などの根拠を示しており、非制限修飾節となっている。C類の「から」節は疑問詞を含むことができないのであり、C類の「だろう」を入れた「だろうから」や、「のだ＋から」でも同じである。(「※誰が来るのだから、女らしい格好をするのですか。→　一郎さんが来るのだから、もっと女らしい格好をしなさい。」)

[31] 文末の「～のだから」を文中の「～のだから」と区別して特殊なムード表現として認める説（注２４：野田 1995, 1997）に同意する。本稿の立場では「倒置構文」の特殊な表現効果と<論理的順序と表現の逆行>現象を解釈する際に、陳述は不可欠の意味要素となる。

疑問詞や評価の副詞（「せっかく」、「幸運にも」など）との共起制限からＣ類の特徴づけをする観点は南説では採用されていなかったので、南学説に対する強力な補強といえる。

ただし、「から」節に前接する「だろう」と「のだ」とは「ます・です」を含めないという点では、ほかのＣ類の接続助詞（同類であるＣ類を包摂できる）とは異なっている点について、より詳しい考察が必要であろう。また、「誰が行くのなら賛成できますか。」での「の＋なら」が使用できることと比較すれば、「誰が行くのだから」が使用できない以上、「の＋だから」という分割は非文法的であると判断できよう。

以上、日本語の複句文中の「のだから」については、「のだ＋から」の内部構造をもつ接続助詞であり、かつ、「非制限修飾節として、出来事叙述の理由ではなく、話者の判断の根拠を表す」ものと確認された。

３．３ 複句文の展叙的職能と、連文の連文的職能

次に、日本語の日本語接続詞「だから」と中国語接続詞“因為～所以”について、両者の用法、統合意味を比較する基準として、先行研究の文法･意味分析のなかから参照できるものをとりあげる。

まず本稿では第一に、因果関係を考察する言語形式に２種類のものを認める。

（１）複句文　：前句と後句とに分かれた単文

前句は南説Ｃ段階以上の要素で構成されているものとする。

前句には、ＰＪ内またはＰＪ外の接続形式に展叙（統叙が担える形式：言い切れる形式が担う）、または再展叙の職能（接続助詞はこの関係構成の職能のみを有する）を担う言語形式がある。

後句には、ＱＪ内に統叙の職能の職能、かつＱＪ外に述定伝達を担う言語形式がある。

前句と後句の統合特徴、言い換えれば呼応関係のありかたを表す特徴を「複句特徴」と名づける。複句特徴には構文特徴（単文として成立する統合型の統合特徴）一般がもつ「文の成立」に関する意味特徴のほかに[32]　必ず独自の呼応意味特徴が認められるものと仮定する。

複句特徴は、ＰＪとＱＪを表す言語形式がおのおの単独で表すものではなく、前句と後句とが連結されることによってはじめて表現可能になる意味特徴を表示するものである。位置的にはＰＪＱＪの中間に存在しても、素材表示の職能をになわず関係構成の職能のみを表す形式は、意味的にはＰＪＱＪの外にあるとみなす。すなわちＰＪとＱＪとは二項対立のミニマム統合型内における単語の意義素に相当する意味内容，またを表すものと定義づける。中国語のように、複句特徴を表す接続助詞が用いられない言語では、この仮定は

[32] 統叙（名詞による素材提示もときに含まれる）のありかた，ムードとしての述定のありかた，伝達のありかた，に関する意味特徴が文の成立に必須の意味である。

言語形式のうえからも明確に裏付けられる。拙論 1992「中国語複句文の接続関係を決定づける諸要因」文化言語学編集委員会編『文化言語学・その提言と建設』三省堂（ｐｐ958～976）でとりあげた例文とそのインフォーマント調査の結果を引用する。

『（Ｐ）　妈妈好了，（Ｑ）你（Ｑ'）后悔了，是不是？

このセリフは老舎の作品で、ある旦那が自分の妾になった娘に話しかけたものである。相手が母親の薬代がほしかっただけで、けっして自分を好いているわけではないと悟っている男の言葉である。原文の（Ｑ'）の位置にあった“就”を除くとＱ句からＰ句へフィードバックされてきた仮定条件の文脈的意味が消滅する。この接続対象（本稿では，ＰＪ，ＱＪ）だけでできた複句には（Ｐ）の位置に“因为”“既然”“要是”の順接の接続詞ばかりでなく、“虽然”“就是”の逆接の接続詞も入れられる（インフォーマントの回答には「よほどの省略があるとして」との但し書きが付くが）。また、それに呼応して、（Ｑ'）に“就”“也”（Ｑ）に“但是”を入れることができる。』

この例文は、その背景となる文脈に基づけば、文末に確認疑問形式“是不是？”を有する単文であり、ＰＪとＱＪとからなる複句文と理解すべきである。中国語においては、接続関係を分析するにあたり、日本語よりも慎重にどこまでが複句文であり、どこまでが連文（後述）であるかを判定する手続きが必要である。また、発話場面や文脈からの背景となる情報を大量に使える会話文を分析対象にするに当たっては、どこまでが接続関係についての複句特徴とみなせるかを、構文特徴における省略のルールと比較して検討する必要が生じる（本稿の分析例としては会話資料を用いない）。

この例文におけるＰＪとＱＪとは、その意味内容を構成する要素間につぎの相関性を認められる。

順をおってその表現を分析しつつ、話し手の思惟のありかたを追体験してみよう。

（1）「母親」に対して「おまえ」が「その母の娘」であるという領属関係があることによって、語義的連関を有する。したがって話題が繋がる可能性が保証されている。（2）第一の話題である「病気がよくなる」に対しては「関係者は喜ぶ」という＜常識による因果関係＞を認めることができる。その常識を基準として、関係者の感情のありかたが＜常識に合致する＞と判定する思惟によって順接関係を表す言語表現が成立し、＜常識に合致しない＞と判定する思惟によって逆接関係を表す言語表現が成立しうる。したがって、このＰＪＱＪの連関を表すためには逆接表現が入れられるのが「正常な表現」（「思惟が直接的に言語化された表現」）である。（3）この文脈における例文としてのＰＪＱＪには、老舎作品の文脈である「母が健康でさえあれば妾にならなくてよかった」という「母の健康」への特別な思い入れと「身売りへの後悔」という感情とが優先的に存在しているからこそ，文末の確認疑問形式（わざわざ確認を必要とするということで、＜常識に合致する＞ことへの疑いが加わる）が表明されている。（4）以上の（2）（3）から、話し手の旦那が、娘が＜常識に合致しない＞感情のありかたを示すであろうと予測している思惟のありかたが浮かび上がってくる。

以上のように複句文における前句と後句の意味的相関性は、複句特徴のみを表す言語形式が用いられない場合にも、やはり考察されねばならない。この例文の場合、言語形式の語義が関わるのは（１）の二人称代名詞が代名詞として有する「場面直接指示による素材概念の持込みの職能」（長田久男１９８４[33]）によって、母娘という領属関係が表される。この領属関係は「同一話題にとりこまれる容認度」（筆者が仮定する「名詞の連文の職能」[34]の担い方の１種）が高い。（３）の文末確認疑問形式「表現を述べ終えた表現者が自分の述定のあり方[35]そのものについて、話し手の同意を確認する」と解釈できること。の２点である。そして、言語形式の語義に含まれ得ない（２）の＜常識による因果関係＞だけが、この複句文の表す「複句特徴」である。

すなわち、筆者は拙稿以降の「順接」に関する問題意識を次の仮定として提示したい。

接続の職能のみを担う接続助詞（または接続詞）がない複句文（または連文）においては、 ＜常識による因果関係に対する配慮＞[36]　という思惟が言語を運用している。

では、接続助詞、接続詞など展叙の一種である接続の職能のみを担う形式は、＜常識に

---

[33] 長田久男 1984『国語連文論』和泉書院
1995『国語文章論』和泉書院

[34] 長田 1984 では名詞が担う連文の職能として「限定されることを要求する」をあげている。筆者は中国語における「身体部位の名称」が判断文内，離合詞内でしめす特殊性、および日本語中国語の二重主語文における「分離不可能名詞」の特殊性を根拠として、名詞と名詞との間に「同一話題にとりこまれる容認度」という接続に関する職能を認めたい。

[35] 文頭確認疑問形式は「叙述・判断の対象として主語の位置にある素材が適格であるかどうかを確認する」意味を表す、と解釈する。
“是不是”（文脈で規定された判断基準に合致するかしないかを問う）は文頭にあっても、文末にあっても、形式・意義素ともに同一の言語形式と判定できる。しかし、意義素のなかに「持込みの職能」が託されているため、（持ち込まれるのは「文脈で規定された判断基準」）その文全体の意義に変化をもたらすことになる。長田 1984 が提示した『持ち込みの職能』は、文中に用いられた指示詞の語義と接続の職能にについて，筆者が準拠する概念である。

[36] 中川祐志 1997「複句文における因果性と視点」『視点と言語行為』くろしお出版
自然言語の電算機処理において、条件節から主節の主語を推断するために「動機保持者」という概念を導入している。その動機保持者の確定のされ方として＜言語依存＞＜常識依存＞をとりあげ、次のように述べている。（ｐ104）
『常識依存の動機保持者を用いる場合は、常識知識が計算機処理可能でない間は不可能。
言語依存の動機保持者を用いる場合は、動機保持者に関する制約が表２．３から分かるので、現在の技術で計算機処理可能。』
そして、次のような見通しを述べている。（ｐ１１５）
『語彙に関する電子化辞書が利用できる環境なら、普通の人間の持つ常識が全く我々の手に負えないほど膨大であったり、定式化が困難であるという議論の根拠はないといえるのではないだろうか。言語理解に常識が利用できることが枠組みの上で見えてくれば、電子化常識事典は現実味を帯びてくると予想している。もちろん、個人の研究者の手には負えないだろうが、なんらかの組織と予算があればできるのではないか、と期待する。』

よる因果関係＞をどう表しているのであろうか。

筆者は拙論において、明らかに順接関係である複句文で「“因為～所以”を挿入しないほうが自然である」と判断するインフォーマントが多かった用例として次の用例をあげ、固有の論理関係を以下のように考察した。この（P）（Q）に挿入して最も自然な関連詞は“要是～就”（ただし“很”は削除したほうがよい）である。

『（例２）（P）他学习用功，　（Q）进步很快。

このことは「勉強に励む」→「成績が好くなる」という因果関係が社会通念として“真理”として認められうるほど強固なものであるため、①わざわざ因果関係を表明するのはわざとらしい。②『他』（彼）という主語を冠した具体論にはふさわしくないためと考えられる。すなわち、（例２）は論理前提そのものを述べる複句文とみなしうる。』（p 964）

日本語では「～ので、～から」という接続助詞がともに挿入できるであろうが[37]、「だから」を（Q）にいれると、「確かな原因を選択した」という話し手の意図的な（P）の叙述への因果づけ、または「当然の結果である」という話し手の意図的な（Q）の判断への再確認、などの伝達意味が生じてくるのではないだろうか。日本語としても、「だから」の挿入については不自然さ、すなわち特殊な場面でしか生じない伝達意味が感じられる。中国語には「～ので、～から」段階の＜常識による因果関係＞への配慮が言語形式によって表現されずに、“所以”の挿入によって日本語「だから」による意図的な伝達意味の段階へと因果関係の表現効果が強化されるために、不自然な印象を与えると解釈できよう。そして、この＜意図的な伝達意味＞とは、本稿では複句文すなわち単文の区切りにおいて現れると定義（文の成立条件のうち、述定・伝達）されているものであり、「だから」と“所以”が挿入されたあとの表現は、複句文ではなく、連文として解釈することになる。

（２）連文：長田久男 1984，1995　の定義にしたがって、隣接する文と文との接続関係のあり方を考察する。筆者は、長田による「連文の職能」の学説としての限界を意識するにはいたっていない。

『連続している二文以上の文が意義の上で繋がりがあれば、そこに「連文」が成立したことになる(1995p90)』『文と文との間に意義の繋がりができると、繋がった結果、１つ１つの文の意義とは異なった意義が連文によって形成される。このようにして形成された意義を「連文が示す意義」と名づける（1984 p 5)』『「文章が示す意義」が「言語が示す意義」として最終的に統一・完結したものであるとするならば、その「文章が示す意義」の統一完結にむかって、連文は、「言語が示す意義」を常に拡充しているものであると言える。』

---

[37] 永野賢 1952「「から」と「ので」はどう違うか」『国語と国文学』29-5 至文堂
三浦つとむ 1875『日本語の文法』頸草書房
（第三章日本語の＜形式名詞＞－「の」とその使い方）
森田良行 1980『基礎日本語２』角川書店（から／ので）
1996『意味分析の方法』ひつじ書房（「～て／～から」）

以下、接続詞に関わる連文の職能の体系的位置[38] づけのみを、抜粋する。(長田 1995p93)

連文的職能→ 第一の基準:○構文中に顕現している＜素材表示部の意義に託されているもの＞構文中に無形化している素材表示部の意義に託されているもの

○→ 第二の基準：◎文の成分中の関係構成部の規制を受けない＜同上＞

文の成分中の関係構成部の規制を受ける＜同上＞

◎ → 第三の基準：

●持ち込み機能に託されているもの：

先行文若しくは後続文のどちらかと繋がりをつけるもの

＝持ち込み詞（注：指示詞）の連文的機能

常に先行文とだけ繋がりをつけるもの＝接続副詞、並列副詞の連文的機能

●限定を期待する機能に託されているもの

常に先行文とだけ繋がりをつけるもの＝名詞の連文的機能

それでは、先行する言語形式が統叙・述定伝達を有さない前句である場合と、前文である場合とでは、すなわち接続形式が展叙の一種である接続の職能を担う場合と、連文的職能の一種である持ち込みの機能を担う場合とでは、その発揮する意味的効果にどのような違いが生じるであろうか。

例えば拙論では、“因為～所以”の両者を入れると不自然だが、“所以”だけの挿入ならば成立する用例が存在することを指摘して、次のように解釈した。

『(例５）※（因为）今天早晨很早就走了，（所以）他们昨天晚上也许睡得很早。

(ok:今日朝早く出発しましたから(※ので)、彼らは昨日たぶん早く寝たのでしょう。)

接続詞を入れると不成立の（例５）は、Q 句が「Q 句以前の叙述時点に対する推断」として、P 接続内容から原因（となる出来事）としての位置づけを奪っている。そこで、（例５）は P 句を“今天的活儿很累”（今日の仕事は疲れる、という判断）に変えたり、または Q 句を“跟他们见不着了”（彼らと会えなくなった、という現実）に変えたりすると成立する。

ただし、“因為”を除いて“所以”だけを用いたなら、（例５）そのままでも「私はそこでこう判断した」という「話し手の語気が加わった自然な表現」として容認される。』（p 963)

このように、“所以”や「だから」が接続する対象とする PS は、文としての言い切りの資格をもつゆえに南説の D 段階に属する要素を含めることがわかる。また、QS の文頭に来るということで、PJ の句末に置かれる日本語接続助詞、また PJ の句頭に置かれる（QJ までを包摂しえないため、文頭ではなく、句頭の位置である）“因为”が表示しえない伝達

[38] 野田尚史ほか 2002『複句文と談話』日本語の文法４　岩波書店
接続詞に関する代表的論考を長田説も含めて紹介している。

的意味を表現できることが予想できる。この伝達的意味は「連文特徴として記述すべき意味特徴」と文脈によって生じた臨場的意味特徴によって構成されていると考えねばならない。

いわゆる順接接続詞の連文特徴として記述すべき意味特徴が、「順接」とか「因果関係」とかの一言に留まるのならば、本稿のような研究は泰山鳴動してねずみ一匹の徒労に終わるであろう。しかし、本研究は「ほぼ等価値の情報を有する[39]　文脈」において、日本語と中国語の接続表現を比較対照することにより、より綿密な因果関係の意味特徴を抽出することを意図している。次項では、科研費研究として採用した方法とその準拠する現象素意味論について述べる。

---

[39] 国広哲弥 1994「認知的多義論—現象素の提唱」『言語研究』106　日本言語学会
籾山洋介 2001「多義語の複数の意味を統括するモデルと比喩」『認知言語学論考』No1, ひつじ書房
ラネカーのネットワークモデルと国広の現象素に基づく認知的多義を統合したモデルを提案。本稿でいうところの「ほぼ同等の情報をもつ文脈」はこの「現象素」概念を拡張したものである。

４：本稿の分析対象とする用例

４．１　において、翻訳文を検討対象とする理由、およびその注意すべき意味分析としての限界点をのべる。４．２　において、用例検索に用いたソフトおよび検索ソフトの開発経過を報告する。４．３　において、今回収集した用例のデーターを報告する。

４．１ 日本語原作の中国語訳と中国語原作の日本語訳

筆者はながく「原文と翻訳を並べた資料」を言語の対照研究に用いるのは邪道であると確信してきたし、現在もそう確信している。したがって、本稿で翻訳文検討という方法を採用するにあたって、まず、その邪道とみなす理由とその排除策とを提示する。

（１）翻訳文は翻訳者による異なる言語による新たな創作である。

本研究では、複数のインフォーマントによる＜複数の別訳＞の可能性を調査することによって、翻訳者の個人的解釈、個人的言語選択というパロール的要素を、極力薄め、

＜典型的理解＞を抽出する努力をはらった。インフォーマントとして協力してくださった方はみな中国の大学で日本語教師をしている方と、日本の大学で中国語教師をしている方たちであり、同様の文化水準と規範的言語使用という条件を備えているメンバーである。典型的理解をとりだすために「多数決による訳語判定」を試みた。

一回目の調査では、この「多数決による訳語判定」は、かなり困難な状況に陥り、筆者は翻訳とは実に新たな創作であるとあらためて実感している。そこで、情報提供を求める方法に工夫を加えて、より絞り込んだ形式で、「特に意見が分かれていた用例」と「因果関係としてとりあげる用例」のみについて、１１月のはじめに二回目の面接をかねた調査を行った。その後、１月には最終調査を完了して論考に入る予定をたてていたのだが、１１月中旬に追突事故の被害を受け入院することになってしまった。したがって、最終チェックの資料が手元に届いたのが、３月初め（日本語資料は３月１０日！）となり、資料にもとづいた論考を具体的に本稿で報告することが不可能となった。稿を改めたい。

（２）多言語の比較対照は人類が普遍的に備えている思惟（思考活動を指すのに「認知」よりも適当と考える）を基準にして、その表現方法の比較としてなされるべきである。原文と翻訳文も、同一の思惟に対する異なる表現として比較されねばならない。

絵にかいた餅のような＜同一の思惟＞という表現[40]　は、実際の意味分析におい

[40] 同一言語集団においても恋愛の初期症状にある人ぐらいしか、自分と同一の思惟をもつ人間が居ると思う人はいないであろう。もしも本気で、自分とそっくり同じように考える人が居ると思う人は、通常の個人生活者としては変人扱いされて、＜非典型的思惟＞の持ち主とされ

ては前項の最後に述べた「ほぼ等価値の情報を有する文脈」として扱うことにする。その前提として、多義語の構造解析の方策として提唱された現象素概念を拡張することにより、本稿では、翻訳文が一応のコミュニケーション機能を発揮することを次のような仮定をたてて解釈する。

人類には生命体としての普遍的認知能力が備わるとともに、その認知対象とした諸現象についても、生命体として同一の枠組み（切り取り方）を加える能力があると仮定する。その枠組みを「現象枠」と名づける。 そして、言語化する対象として現象枠を思惟に組み込む場合、「ほぼ等価値の情報」を各自然言語の文脈へ付与するものと仮定する。

ほぼ等価値であり、かつ文脈へはいりこむ情報とは、述語に対する名詞の意味役割、コミュニケーションの最小単位の区切り、など意味に関する情報である。本稿で扱う統合特徴、構文特徴や連文特徴は、原則として[41]　各自然言語における視点、論理関係の構築などと関わる特徴であり、言語化するにあたって必要になる情報である。すなわち、自然言語に多様な表現形式をもたらす原因となるものである。

したがって、用例の述語部分で担われる＜普遍的現象枠としての情報＞に「出来事の叙述・判断」「行為・過程・状態」の区別をつけたうえで、接続表現を比較することにする[42]。

４．２ 検索ソフト

本稿で使用した検索ソフトは二種類ある。

（１）中日対訳コーパス（第一版）　　北京日本学研究センター　２００３年

（２）PLATEA　GPSV１（現在 Ver１．７）　　（有）PLATEA　　2003 年

（１）は、ライセンスを購入して使用した。（２）は、本研究で開発した検索ソフトである。（１）を使用しながら、その改良を加えたい点を考慮しつつ開発を進めた。その結果、（１）は（２）に比べて次の特徴を有している。

１：　データーベースを自由に拡張できる。

２：　@マークの区切りを原文翻訳文、ほぼ同等の位置につけることにより、同等の前後１行以上難行まででも参照することができる。

るはずである。ただ、不思議なことに政治イデオロギー化した場合の「同一の思惟」（神国日本，ゲルマン民族の優位性などなど）は、その民族の＜典型的思惟＞として称揚される。孤独からの逃避、集団パニックは人類の生命体としての欠陥であろう。

[41] 項目２：で述べたように、形式論理学や様相論理学の命題として数式で記述可能であり、かつ自然言語に適応可能な論理関係が存在すれば、それは現象素枠内の情報として数えることができる。

[42] 拙論では、PJ の述語に充当される品詞の区別が、後続の QJ の要素にどう影響するかを調査した。

３：　検索結果を出力する前に、不要な用例を除去できる。

４：　検索対象文字数と、用例出現数が毎回の検索ごとに表示される。

開発者である PLATEA 代表、林智氏による仕様書を第三部に転載する。

４．３ 収集した用例に対するインフォーマントチェック結果

第一回めと第二回目の結果を“因为”“所以”「だから」について、それぞれ報告する。「～のだから」は第三回めに調査に加えた。実際に調査した単語は、ほかに“因此”“但是”「そして」「そこで」「しかし」があり、置き換え用の単語にはさらに“于是”“倒”“却”「～から」「～ので」「でも」を指定している。中国語の用例については、原文の場合も日本語の場合も中国人インフォーマントに内省報告を依頼した。同様に、日本語の用例については、原文翻訳文ともに日本人インフォーマントに内省報告を依頼した。

当初の計画にあった検索ソフト（１）での用例のデーターは以下のとおりであり、字数にして各２３０万字相当である。なお、（１）の擁するデーターベースの総量は１３００万字とのことである。本稿での作品選定の方針は、文体の差異があきらかなもの、なるべく現代の口語で通用する文章であること、そして日中両国語の分量がほぼ同量（ソフト上の byte）になることである。なお、検索ソフト（２）で、OCR 処理を施した星新一の短編小説のデーターベースを作成して、その３００万字相当のデーターを補助として使用した。（２）の擁するデーターベースの総量は現在、９００万字強である。

Ａ；検索対象作品

日本語；	題名	付録ＮＯ	コーパスＮＯ	作　者
（１）小説軟派：	金閣寺	１８	６４	三島由紀夫
	越前竹人形	２０	３	水上　勉
	ノルウェーの森	２２	１３	村上春樹
（２）小説硬派：	砂の女	５	１８	安部公房
	青春の蹉跌	６	６１	石川達三
（３）論　　説：	心の危機管理術	２４	２６	岡本常雄
	日本列島改造論	２６	２８	田中角栄
	日本国憲法	２９	２９	——

中国語；	題名	付録ＮＯ	コーパスＮＯ	作　者
（１）小説軟派：	小鮑荘	８	５１	王安憶
	丹鳳眼	１４	３６	陳建功
	傾城の恋	２３	４６	張愛玲
（２）小説硬派：	応報	１１	３９	王蒙
	北京女医	１９	４８	諶容
（３）論　　説：	日中飛鴻	２５	３３	人民日報
	日中共同声明	２４	３２	——
	毛沢東選集	３２	６０	——

B；作品へ検索をかける接続形式

（1）因果・結果・原因理由など

日本語資料への検索	中国語資料への検索
（1）そこで（後分句頭副詞）	（1）（後分句頭副詞）所以　因此　于是
（2）だから（後句頭副詞・前句末助詞）、	（2）（前・後分句頭副詞）因为
（3）ので（V現OR完了／A～・Nな／AVな～）	（3）（後分句内副詞）就　（2）

言い返し・予想外・事態ストップなど

日本語資料への検索	中国語資料への検索
（1）しかし（文頭副詞）	（1）（前分句副詞）虽然
	（前・後分句頭副詞）但是，可是
（2）でも（前分句末助詞・後句頭助詞）、	（2）（後分句内助詞）却
（3）のに（V現OR完了／A～・Nな／AVな～）	（3）（後分句内助詞）倒

C；質問方法

A国教師への質問

（1）単語の入れ替え＜A国原文→A国語の他の２～３種が使えるかどうか＞

○・×式　○であっても、ニュアンスが変わるものがあれば記述する

(2)訳語の入れ替え＜B国原文を読み、A国語の他の2～3種がふさわしいかどうか＞

○・×式　もっと他の表現がふさわしければ記述する

４．３．１　“因为”

＜依頼文＞

中国語原作内の順接表現用例：因為・所以・因此

検討項目（1）◎どちらか一方がある場合「因為～所以」の呼応表現をつくる。

または、「因此」を分解して「因為～所以」でくくられた表現をつくる。

（2）☆主に「因為」と「為了」を置き換える。「所以」と「因此」を置き換える。

「才」と「就」を置き換える。

その他、指示された置き換えをする。ただし、文法的位置は移動してもよい。

（3）☆☆アンダーラインの部分を異なった接続詞を使って書き換える。

回答方式　検討結果を赤鉛筆で表内へ直接書き入れる。

分解しにくい場合、置き換えにくい場合は、程度に応じて△・×マークを用例NOにつける。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

[記入者氏名：　　][記入年月日：　　]

印象に残った用例などについて、自由にコメントしてください。（１つだけでも結構です）

＜調査結果集計例＞翻訳文の日本文への調査集計も併記

集計部分は赤字で表記してあるが、印刷の都合上、上にピリオドを加える。

総合因為

（1）“所以”が表れやすい文脈、表れにくい文脈はどう異なるか？

（2）“为了”の目的が、原因へ変貌できる文脈はなにか？

（3）“由于”と比較して、「結果の叙述」を要求する度合い（前句または後句）がどう異なるか？

（注）中国語資料の集計では（　）内にインフォーマント名が示されている。＋数字は賛成者の人数。

＜　＞は、もともと空白であった位置。×は、何も入れないほうがよいという判断。

丹鳳荘

93 ☆ ☆	///他寻思着，我那就得罪她了？至于吗？我当时说啥来的？说啥了？哦，——我说她“是给小科长，写材料的小白脸儿，头头脑脑儿的儿子预备的”。是因为+5 X（洪）为了这句话？不，乔奶奶不会把这话传给她呀！哦，是为（宛）；为了 X+5 因为说了“人家看不起咱，咱也不高攀人家”？……总之，辛小亮心乱啦，☆・☆	///もう一度あのときのことを思い出してみた。俺はあのとき彼女を傷つけるようなことをしただろうか。どんなことを言っただろう？そうそう——彼女は「若い管理職や、文書係の色男たちや、おえら方の息子たちのお相手」だと言ったっけ。それが原因だろうか？いや、喬婆さまがそんなことを彼女に伝えるはずはないな。じゃあ、＜なぜなら：X＋3　＞「相手の娘は俺たちを馬鹿にしているにきまっているし、俺たちだってお高いのはごめんだ」と言ったからから：ので＋？：ため＋3：ため△：せいかな？……こんなふうに辛小亮の心は乱れた。

是因为（X）：王（例外 OK）＜是・為了ならば是・因為とほぼ同等＞

棋　王

10 ◎	///因为所去之地与别国相邻，所以（冷）斗争之中除了阶级，尚有国际，所以对（祷）；所以+1（宛）出身孬一些，的人（祷）；所以+1（翟，姜）组织上不太放心。◎	＜なぜなら＋1：X：そのため＋？　＞先方は外国と隣あった土地なのでママ＋1：だから＋1：のため＋△：なのだから△、闘争のさなかのこともあって、出身階級のほかに国際関係があり、送り出し機関は「出身が悪い」と首をひねった。

所以：哪个地方最好？

90 ◎ 誤植 ☆	因为（姜）我之所以（祷）很后悔用油来表示我对生活的不满意，还用书和电影儿这种可有可无的东西表示我对生活的不满足，所以（姜）因为这些在他看来，实在是超出基准线之上的东西，所以+1（冷・宛）他不会为这些烦闷。	///ぼくは食用油などで自分の生活に対する不満を表したこと、また、あってもなくてもいい本や映画などで自分の生活に対する不満を表したことをひどく悔やんだ。＜なぜなら＋3：というのは　＞これらは彼からみれば基準以上のものであり、彼がこれらのことで悩むことはなかったからのだから＋1：なので＋？：ので：ためだ。

所以への分割：哪个地方最好？

４．３．２　「だから」

＜依頼文＞

検討項目（１）☆　後分句の句頭では「そして」「そこで」と置き換える。
　　前分句の句末では「～（な）ので」と置き換える。
（２）☆☆その他、置き換えられると思う接続表現を指摘する。
　　例えば、指示詞「そ」のついた「そのため」「その結果」「そうなると」など。

回答方式　　置き換えられる表現を赤鉛筆で表内へ直接書き入れる。
　　（すべての用例について（１）（２）の検討結果を回答する。）
　　ただし、使えそうでも確信のもてない置き換え表現には、△マークをつけておく。

＊　＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

[記入者氏名：　　][記入年月日：　　]

印象に残った用例などについて、自由にコメントしてください。（１つだけでも結構です）

＜調査結果集計例＞翻訳文の中国語文への調査集計も併記

総合「だから」　「記入者名：　　年月日：　　」

（１）“所以”（“因此”）の前に“因為”が置けるかどうか？置けるとしたらどこか？

（２）“迂是”はすべての場合に使えるか？

（３）“結果”はどう置き換えられるか？

　提示する念押し“”（誘導語句）は除外。

（４）接続助詞“～～だから，＝＝”の場合、“就”“才”のどちらが使えるか？

中国語原作の日本語訳より補充＜だから＞

　日本語訳部分だけの検討項目：（３）接続表現に関してもっとふさわしい日本語訳があると考えられる場合、日本語訳のうえに、その改定訳を書き込む。

＜所以＞との共通用例（＝翻訳文中の使用例）

150	“王妈妈，请你告诉我，我亲妈妈倒是（×+4）个什么人？她，她是怎么死的？…为什么你们总是不叫我知道她的事？”道静知道王妈见过她的亲妈，因此+6：×+1/就+2×+3 所以才想起来问她。	**「私の王媽、お願いだから教えて、私の本当のお母さんは、いったいどんな人だったの？お母さんは、どうして死んでしまったの？……なぜ、誰もお母さんのことを、私に話してくれないの？」道静は王媽が、自分の生みの母親に会ったことがあるのを思いだし、それでそこで＋２：そのため彼女に、問いただしてみようと思いついたのだった。**
323	…报告你好消息：你已经考上师大了，而且成绩很不错。可是也有不好的消	**……よいニュースをお知らせするわ。あなたは師範大学の入試に合格したのよ。しかもとてもよい成績で。だけど**

	息：由于你妈妈因为由于花了姓胡的许多钱，她找不到你，没法应付姓胡的，听说已经躲起来了。因此+2 所以，（×=王:文体）小林，你能够回北平来么？我看你先不要回来吧！（△=祷×+3）	悪いニュースもあるの。あなたのお母さんは、胡とかいう人のお金をたくさん使ったあげく、あなたを見つけることができないため、胡に会わせる顔がなくなって、行方をくらませてしまったそうよ。だから、そこで＋１×：ゼロ＋２：それで＋△：そのため林さん、あなた、北平へ帰って来る？私は、さしあたり帰って来ないほうがいいと思うけど（伝聞判断）
1126	“你要尽可能利用你父亲的关系，在北大存身下去。~~想想，~~由于因为反动者的压迫越来越紧，我们许多人都不能再公开活动，因此所以×+3 你和徐辉要尽可能迷惑敌人，必要时就能+3 才能×+1;还能给敌人突然的袭击。告诉你，李孟瑜在唐山煤矿上，他做起工人工作来啦。”	「きみは、できるだけおやじの関係を利用して、北大に残るようにしたまえ。考えてみろよ。反動派の圧迫はますますはげしい。ぼくらの多くはもう、公然活動ができなくなっているので、：から、。だから、そこで＋２△：そのため＋１：そして＋×：その結果：それできみと徐輝はできるだけ敵の目をくらましていて、必要時に敵に奇襲を加えるのだ。きみに教えておくが、李孟瑜は唐山の炭鉱で、労働者の組織工作をはじめたよ」
1662	你别小看这个阿妈，她可是我父母最信任的人——奴才的奴才。他们叫她监视着我，因此+3 所以×+2 必得这样唬一唬她。”☆	あのばあさんは、なかなか油断できないんだぜ。ぼくの両親がいちばん信頼している人間さ、奴僕のなかの奴僕だよ。おやじたちは、奴にぼくを監視させてるんだから。だから~~なので~~：だから＋×：ゼロ：△：よって△：そのため△：そこで△＋×、これくらい、おどかしとかないとね——」

ノルウェーの森

276	とはいうものの〈突撃隊ジョーク〉は寮内ではもう既に欠くことのできない話題のひとつになっていたし、今になって僕が収めようと思ったところで収まるものではなかった。そして直子の笑顔を目にするのは僕としてもそれなりに嬉しいことではあった。だからそして＋１△：そうして：そこで＋３：その結果＋２：それで：そのため＋１：~~よって~~僕はみんなに突撃隊の話を提供しつづけることになった。	尽管如此，敢死队逸闻还是成了宿舍里必不可少的话题。事到如今，并非我想停战就能偃旗息鼓的了。再说，能见到直子的笑脸，对我来说也是件开心的事。于是+1 / 因此+1；所以+3；于是 / 所以结果，我才仍旧向大家继续提供敢死队近况。☆（X）
277	たぶん僕の心には固い殻のようなものがあって、そこをつき抜けて中に入ってくるものはとても限られているんだと思う、と僕は言った。だからゼロ：それで＋２：そのため＋１うまく人を愛することができないんじゃないかな、と。	我说，；因为+2 或许因为我的心包有一层硬壳，能破壳而入的东西是极其有限的，。所以我才不能对人一往情深。◎☆（X+5 不得已へ意味変化する）

４．３．３　「～のだから」（第三回：日本人インフォーマント調査）

＜依頼文＞

日本人の先生方への質問項目＜日本語原作の対訳資料＞について　　Ｐ１／２

総ページ数　２８ページ

（１）　だから

文頭の接続詞の場合

＝テスト形式「だからこそ」への変換ができるかできないか。

「だからこそ」へ置き換えられたら　こそ

名詞に接続する場合（文中でも、句末でも、位置を問わない）

＝テスト形式「なので」への変換ができるかできないか。

「なので」へ置き換えられたら　なので

＝テスト形式「だからこそ」への変換ができるかできないか。

「だからこそ」へ置き換えられたら　こそ

（２）　の（ＯＲん）だから

動詞の連体形（Ｕ形）と共起する場合

動詞の完了形（ＴＡ計形）と共起する場合

＝テスト形式「から」への変換ができるかできないか。

「から」へ置き換えられたら　から

分節の機能を調べる

＝テスト形式　「のだ」＋「だから」

分節できれば「の／だから」と斜線を入れる。分節できなければそのまま。

（３）　なの（ＯＲなん）だから：もの（ＯＲもん）だから；

ことだから；ところだから

形式名詞が省略できて、だから単独になれば形式名詞のうえに　×

全体が省略できて、　テスト形式「から」単独になれば、　から

（４）だからね（ＯＲなあ）：を代表形式とする＜文末で言いさし＞てある「だから」

文末に用いられて、聞き手に対する働きかけを表し、「ねえ」「なあ」がつけられる場合。

話し手の慨嘆；叙述した内容に対する感想。

自分を納得させる機能。ほか。。。　Ａ　と記入

聞き手からの誘いかけを拒否する態度。

聞き手を納得させる機能。ほか。。。　Ｂ　と記入

できれば、具体的な伝達機能の区別も記入してください。

以上、四角に囲まれた赤字の記入方法をつかってお応えくださいませ。

すべて、書き込んでいただいてかまいません。よろしくお願い申し上げます。

日本人の先生方への質問項目＜中国語原作の対訳資料＞について　　Ｐ２／２

総ページ数　２３ページ

（1）　中国語原作に該当するような「因為」「所以」「于是」がない場合

だから：　省略できる場合、　省略可のしるしとして　可

別の位置にあったほうがよいと思われる場合、　矢印表示

別の表現を挿入したほうがよいと思われた場合；　自由表記してください。

（2）　中国語原作にある「因為」「所以」「于是」が、訳出されていない場合

「だから」について、訳出すべき位置に　ダ

別の表現が訳語としてふさわしいと思われた場合；自由表記してください。

そこで；そして

～だから；～から；～ので

（3）　その他、＜日本語原作について＞チェックしていただいた項目で

気づかれたことがあれば、記入してください。

日本人の先生方への質問項目＜総合「だから」＞　8　ページ

＜総合「因為」＞　5　ページ

＜総合「所以」＞　4　ページ

いずれも、第一回目の調査において、日中両国の先生方からいただいたコメントを集めて、列記した資料です。

日本語部分につきましても、いろいろな御意見を報告していただいております。

もっとも賛成する用語とその位置について、　◎　をおつけください。

また、おかしな表現だと判断された用語がありましたら、　×　をおつけください。

お忙しいさなか、しかもお急がせいたします。

大変恐縮いたしておりますが、どうぞご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

＜調査用原資料＞（部分はすべて色分けしてある：本稿校正段階で集計未完了である）

No	番	あした来る人（原文）	情系明天（訳文）
1	106	「さあ、出版の交渉と金を集めに来たんだからな」	“这个——，我可是来联系出版和募捐的。”
2	133	曾根二郎は、昔の友達が自分を敬遠したことに感づいていた。しかし、敬遠されたことを憤慨してはならぬと思った。とにかく東京でのねぐらを、彼は、おれのために発見してくれたのだからな!これもやはり友達の有難さというものだ。	曾根看得出，往日的朋友在对自己敬而远之。这也是埋怨不得的。不管怎样，是他给自己找的这个“窝”！毕竟是有朋友的好处啊！

3	194	曾根は、しかし、上京してだれからも相手にされなくても、たいしてへこたれなかった。出版さがの交渉は一応打ち切って、金を出す人を探そうと思う。これだけ東京に人がうようよ居るのだから、一人ぐらい、百万円の出版資金を出してくれる奇特な人物がいても不思議はないではないか。必ず居るに違いない。それにぶつかるかぶつからないかだけの話である。	尽管这次来京屡遭冷薄，但曾根二郎并不曾气馁。他打算先把联系出版的事放一放，而先物色肯出钱的人。□东京城如此人如潮涌，□其间有一两个肯赞助一百万出版经费的出众人物，又有什么奇怪的呢！此人定有无疑，问题不过是能否碰上罢了。
4	243	「そうは言うが、なにも、おれがひいたわけではない。運転手がブレーキをかけそこなったんだからな」	“别那么说。其实也不是我撞的，是司机刹车晚了。”
5	250	昨夜会社の自動車で、宴会から帰る途中、人をひっかけてしまった。擦過傷程度だが、心配だから病院に入れて手当をしてもらってある。そこへ自分に代って見舞に顔を出してくれないかというのである。	父亲告诉她，昨晚乘公司专车赴宴归途中，碰了一个人，虽说只是擦伤，但由于放心不下，还是送到医院去了。他打算让八千代替自己前去探望。
7	286	「それもきいて来てもらいたい。本当は入院してもらわなくてもよかったかも知れない。しかし、とにかく、こっちがひっかけたことはひっかけたんだからね」	“这也要你去问问。其实也许用不着住院。不过毕竟是我们碰的嘛！”
8	294	「別段難しい人間でもないらしい。はねられておいて、自分でのこのこと向うへ歩いて行きかけたんだからね。こっちで心配して呼びとめなければ、そのまま行ってしまったかも知れない。普通ならうるさいことを言って来るところだがね」	“倒也不是胡搅蛮缠的人，碰了以后，自己还一步步往前走来着。要不是我不放心，把他叫住，也许就那样走掉了，若是一般人，断不会轻易罢休的。”
9	337	「一人だからね」	“两个人嘛。”
11	544	梶は自分の方から若い社員を帰した。いつも汽車の乗車券はその日の朝とどけさせることにしている。前日から切符を持っていると紛失する不安があり、といって、夕刻もらうことにすると、切符を手にするまでなんとなく落着けない。だから当日の朝、それを入手することにしている。こうしたところは梶大助はわがままである。	梶大助打发年轻职员走开。他总是叫人把火车票在当天一早送到。把票前一天拿在手里，他担心丢失；而若傍晚才送来，他又在票到手之前心神不定。所以总是在当天早上拿票。这也是他的一种任性之处。

第三回：＜調査用原資料＞＜“因为”の翻訳パターン＞実際の調査には用いていない。

検索条件 ＝ 候補語指定: 前単語(因为) 2256 例

のだから：74 例　のだ：679 例（＋ろう：＋が）　んだ：76 例

だから：367 例　ので：1535 例

No	行	情系明天（訳文）	あした来る人(原文)
1	80	///“因为您总是如同至宝地不离那个旅行包。”	「リュックサックを大切そうに持ち歩いていらっしゃるから」
2	134	曾根早早上床歇息。因为累了，睡得很香。半夜醒来一次。窗子上没挂窗帘，天空象失火一样红通通的。他起身往窗外望去。大众酒巴的霓虹灯光在对面闪闪烁烁，把它那红得糜烂一般的光渗进夜幕之中。	曾根は早く床に就いた。疲れていたので よく眠った。夜半に一度眼を覚ました。カーテンのない窓が、火事のように赤くなっている。彼は立ち上がって窓から戸外を見た。安酒場のネオンが、窓のすぐ向うでただれたような赤い光を夜空ににじませていた。
3	172	大学毕业出来，曾根在北海道等地的水产研究所干了将近十年。战后转到一家私立科研单位——资源科学研究所。这期间里，哪怕一张贺年片或一封问候信都没给博士去过。这可以说是因为埋头于杜父鱼的研究。不过说实话，他一次也没想起过什么博士来。尽管在学问和人格方面他是尊敬白根博士的，而且自以为在这点上决不亚于任何人。	大学を出てから十年近く曾根は北海道初め各地の水産試験所に勤め、それから終戦後、資料科学研究所という私立研究機関に転じたが、その間博士には、賀状一本、暑中見舞一本出していない。半分は生れつきのずぼらさからであったが、半分はカジカの研究に没頭して、本当のところ、博士のことなど一度も思い出したことはなかったのだ。といって、学者として、人格者として、白根博士を尊敬している点では、曾根は敢て人後に落ちないつもりでいる。
4	251	因是电话告知，八千代无法了解详情。不过既未骨折，又未出血，走路也不碍事——居然把如此完好无缺的人送去住院。这确实象父亲的所做所为。他是个事无巨细无不悉心尽力、慎之又慎的人。这还不算，把人家送进医院后，又叫自己的女儿代为探望（当然可能因为自己忙）。看来父亲原来那套做法仍然一成未变。遇到麻烦或棘手事，自己总不愿意出面。	詳しいことは電話だから判らないが、骨折もしていないし、出血個所もない。歩行にもなんの支障もないという。—そんななんでもない相手を病院に入れるのも、こんなことにかけては万事神経質に振舞う慎重居士の父親のやりそうなことであるし、それからまた、忙しいにも忙しいだろうが、相手を病院に入れておいて、その見舞の役を娘にやらせようというのも、いかにも父親らしいことである。面倒なことや厄介なことには極めて臆病である。

4．3．4　雪国の三種類の翻訳検討（第三回；中国人インフォーマント調査）

雪国の原文に、「だから」「～のだから」が使われている部分を資料とする。今回は日本語を解さない中国人（大学の中国文学を担当する教員）にインフォーマントを依頼した。

＜依頼項目＞

（1）最もよい中国語の文章だとおもうものに◎をつけてください。

（2）中国語文として入れ替え可能な接続詞を記入してください。

＜調査資料＞（部分はすべて色分けしてある）

検索条件 = 候補語指定: 前単語(だから) 因为:24 例 由于:7 例 所以:38 例 于是:7 例

（注）≪　≫内は一番よい中国語であると判定した人。≪／≫は置き換え可能な形式。
空白 の部分への補充もある。（もとからある形式には色分けがしてあった）

No	行	雪国（原文）	雪国（1）（訳文）	雪国（2）（訳文）	雪国（3）（訳文）
1	41	娘は島村とちょうど斜めに向い合っていることになるので、じかにだって見られるのだが、彼女等が汽車に乗り込んだ時、なにか涼しく刺すような娘の美しさに驚いて目を伏せる途端、娘の手を固くつかんだ男の青黄色い手が見えたものだから、島村は二度とそっちを向いては悪いような気がしていたのだった。	姑娘正好坐在斜对面，岛村本是可以直接看到她的，可是他们刚上车里，她那种迷人的美，使他感到吃惊，不由得垂下了目光。就在这一瞬间，岛村看见那个男人蜡黄的手紧紧攥住姑娘的手，也就不好意思再向对面望去了。《朱》	姑娘因为《由于》正好坐在岛村的斜对面，是直接可以看到的，可是在他们上火车时候，那姑娘的清冷刺人的美质，使岛村吃了一惊，他就把眼睛垂下来，那时他看到男人的青黄色的手紧紧地握着姑娘的手，他就觉得不好再朝那个方向观望了。	姑娘恰好坐在岛村的斜对面，本来劈面便瞧得见，但是他俩刚上车时，岛村看到姑娘那种冷艳的美，暗自吃了一惊，不由得低头垂目；蓦地瞥见那男人一只青黄的手，紧紧攥着姑娘的手，岛村便觉得不好再去多看。《李》
2	47	汽車のなかもさほど明るくはないし、ほんとうの鏡のように強くはなかった。反射がなかった。だから、島村は見入っているうちに、鏡のあることをだんだん忘れてしまって、夕景色の流れのなかに娘が浮んでいるように思われて来た。	///车厢里也不太明亮。窗玻璃上的映像不像真的镜子那样清晰了。反光没有了。这使岛村看入了神，他渐渐地忘却了镜子的存在，只觉得姑娘好像漂浮在流逝的暮景之中。《朱》《李》	火车里光线又不是那么亮，没有普通镜面那样的强烈光彩，它不能反射。？／因而 在岛村注目观望的时候，他渐渐地忘记了有这么一面镜子，以为那姑娘象是浮现在晚景流动的当中了。	车厢里灯光昏黯，窗玻璃自然不及镜子明亮，因为《由于／这是由于》没有反射的缘故。所以《＊／以致》岛村看着看着，便渐渐忘却玻璃之存在，竟以为姑娘是浮现在流动的暮景之中。

5：今後の研究方針

まず、用例検討のためのインフォーマント調査の作業を次のプログラムにそって継続する。

（1）「多数決による典型的解釈」を形づくるために、意見がわかれた用例を小数絞り込んで大人数のインフォーマント調査を行う。用例の前後の文脈はながければながいほどよいので、検索ソフト GPS を活用する。

（2）複句文と連文との差異を明らかに示す要素（南説の C 段階と D 段階）を選定し、それらの要素が含まれるかどうかによって“因为”が複句特徴を表すこと、“所以”が連文特徴を表すことの確証を提出したい。

（3）QJ に後続する文末の「～のだから」は構文特徴を付加されたムード表現であり、その接続対象が PJ に後続する文中の「～のだから」とは異なることを、接続対象の位置を点検することによって証明したい。

ここまでの論証は、本稿で考察した先行論文や拙論から、おそらくは順調に遂行できるであろう。本稿についで上梓される予定の『金沢大学中国語学中国文学教室紀要』で発表したい。

その後は、普遍的意味として仮定できる意味内容がいかなるものであるか、について確信を得るために、さらに多くの言語哲学の領域の先行文献や、認知科学の言語学以外の領域についても知識を涵養していく必要がある。かなり楽観的に、「何とか伝えたいことが通じている」のだから、同じ地球に生きている人間には「経験的真理」というものが共有されているはずだ、という仮定の下に研究を続けてゆく予定である。